

付着生物ラーバ情報

1 ラーバの出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)

ラーバは久栗坂沖で0.6個体/m³見られました(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは蟹田沖で1.4個体/m³、久栗坂沖で30.0個体/m³、川内沖で52.3個体/m³見られました。

(3) アミクサ(通称:クサ)

小枝は久栗坂沖で1.1個/m³、小湊沖で2.5個/m³見られました。

(4) オベリア類(通称:クサ)

クラゲは見られていません。

(5) マボヤ

ラーバは奥内沖で5.8個体/m³、久栗坂沖で4.4個体/m³、小湊沖で5.0個体/m³、川内沖で2.3個体/m³、卵は蟹田沖で1.4個/m³、奥内沖で13.3個/m³、小湊沖で1.3個/m³見られました。

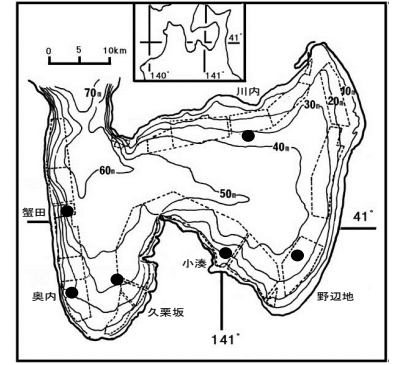


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況 単位:個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	オベリア類	アミクサ小枝
				ラーバ	卵			
蟹田沖	H29.12.22	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	0.0
奥内沖	H29.12.15	0.0	0.0	5.8	13.3	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H29.12.22	0.6	1.1	4.4	0.0	30.0	0.0	1.1
小湊沖	H29.12.15	0.0	1.3	5.0	1.3	0.0	0.0	2.5
川内沖	H29.12.22	0.0	0.0	2.3	0.0	52.3	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

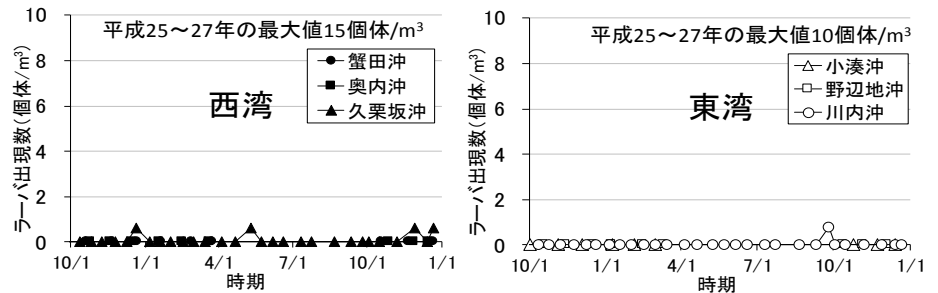


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成29年12月)

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が5~11℃台に低下しています。ユウレイボヤのラーバ出現ピークは、例年11~12月になっていますが、久栗坂沖の今までの累積ラーバ数は1.2個体/m³です。10月~翌年3月までの累積ラーバ数は10個体/m³以下に留まると思われるので、西湾では、分散済みの籠への今秋の付着は少ないと予測されます。

マボヤの付着は進んでいます。今後、アミクサ小枝が本格的に出現し、キヌマトイガイの付着が進むものと考えられます。オベリア類の付着は年明けになると思われます。

3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数(久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数(蟹田、奥内、久栗坂)、12月~翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係調べたところ、平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ないことが分かりました(図3)。ちなみに久栗坂の平均水温の平年値は8℃です。

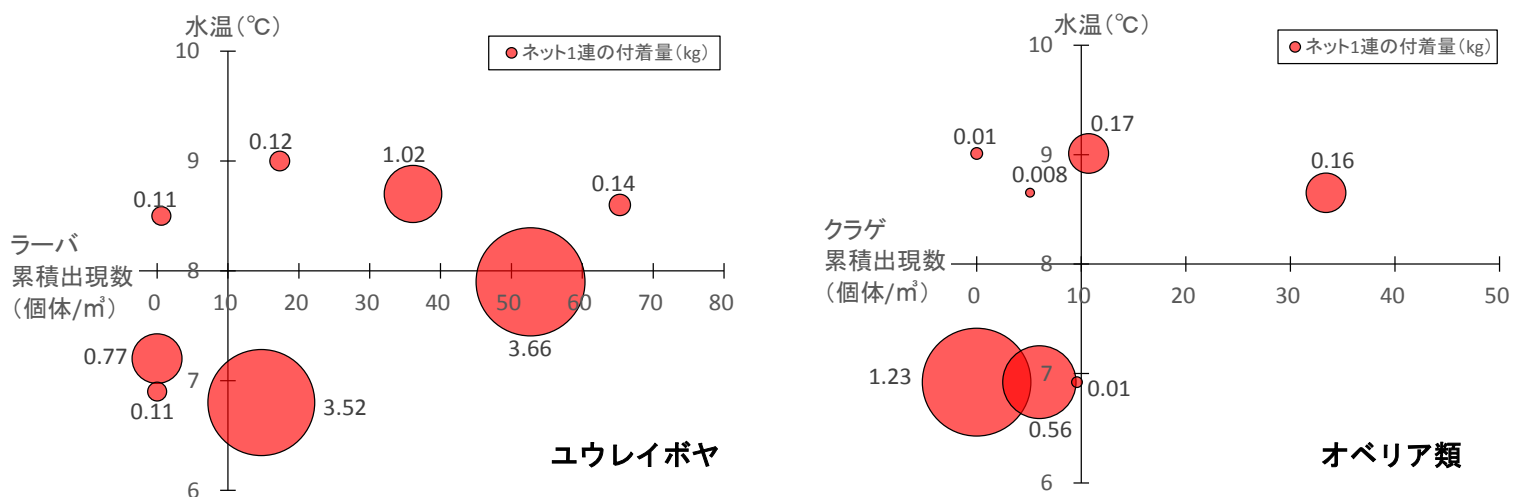


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(○印の中心はプロット位置、面積は付着量)

